

THE AMBITION!

SEASON 2 口説きのロジック

恋愛屋ジュン

あくまで「変わるのは自分」

今回のレポートで、口説きのロジックの解説は最後になります。次回からは「関係構築」ということで、女性との関わり方や、彼女をアゲマンにする方法や、より自分や女性が成長するようなロジックをお伝えしていきます。

今回は、口説きのロジックを、更に飛躍させ、

「セックスくらい、いつでも出来る」

「彼女くらい、いつでも作れる」

という、強者のマインドを、身につけて頂ければと思っています。

この「いつでも出来る」という思考がかなり大事なんです。一般的な弱い男だと「セックスするorしない」とか「付き合うor付き合わない」の決定権は女性にあります。

男が頼み込んで、女が可否を決める。

そんな、悲しい構造になっています。

ただ、もうお分かりの通り、この力関係は逆転させなければいけません。**女性が頼む側、男が決定を下す側。**この構造を生み出すために「いつでも出来る」というマインドを持つことが、必要不可欠なのです。

カンチガイしないでほしいのですが、

女性に告白させるというわけではなく、あなたが選ぶ側のマインドを持ったコミュニケーションを取ることによって、女性は無意識のうちに力関係を察知する・・・という構造です。

あくまで、変わるのは自分。

そもそも「相手を変えてやろう」とか「相手を操作してやろう」という思考回路で接するのは、非モテの発想です。自分が変わらぬまま、相手を変えようとか、何様のつもりやねん、っていう。

自分が変われば、勝手に相手も変わります。

だから女のケツじゃなくて、自分の生き様を見てくださいね。

自分が変われば、女性が変わる。

自分が楽しんでいけば、女性も楽しくなる。

自分がいい男になれば、女性もいい女になる。

まず、己を高め、関わる女性に「悦」を感じさせられるような、コミュニケーションを目指していきましょう。

この口説きのロジックは、ただの「落とせる会話テンプレート」ではなく、人間を本質的に理解して「どんな状況、どんな相手だろうと自信を持って堂々とコミュニケーション出来るスキル」を手に入れていただくものです。

ぜひ、実践し続けて、その帝王のスキルを手に入れて頂ければと思います。

スキルの飛躍

何らかのスキルを手に入れようとしたときに、絶対に知っておいてほしいことがあります。それが、人間がスキルを獲得する仕組みです。

- ・ 会話力を上達させたい
- ・ 魅力的なボディランゲージを身に着けたい
- ・ 人を惹き込むような話し方がしたい
- ・ セックスがうまくなりたい
- ・ 文章で人を感化する力が欲しい
- ・ 外国語を自在に操れるようになりたい

などなど。これから人生を送っていく上で、何らかのスキルを身に付けることは、多々あるはずですよ。

老後になっても「ゲートボールうまくなりたい」とか。きっとそういうのが出てくると思います。笑

その時に、この「**スキルが自分のものになる仕組み**」をしているのと、いないのとでは、気持ちも結果も、全く違うものになります。

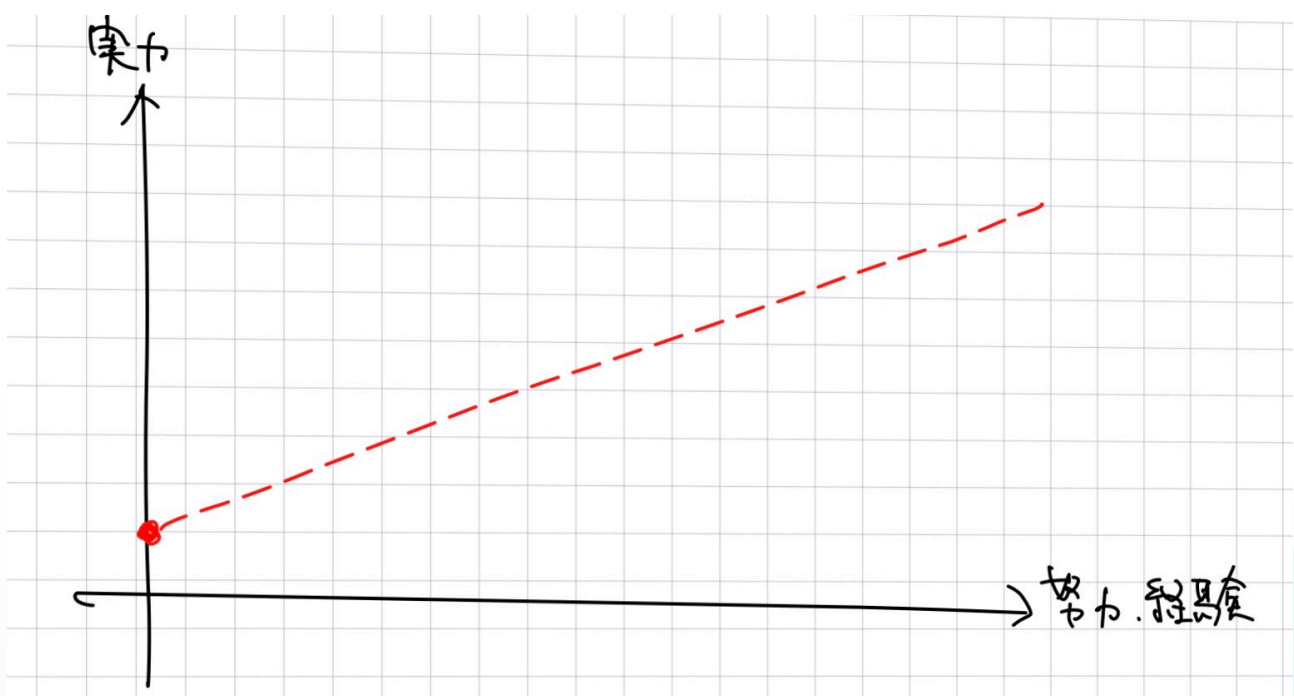
なので、今日はコレをまずお伝えします。

多くの人のカンチガイは、

「人間のスキルやレベルや、人間的魅力は、一次関数的に増える」

ということです。

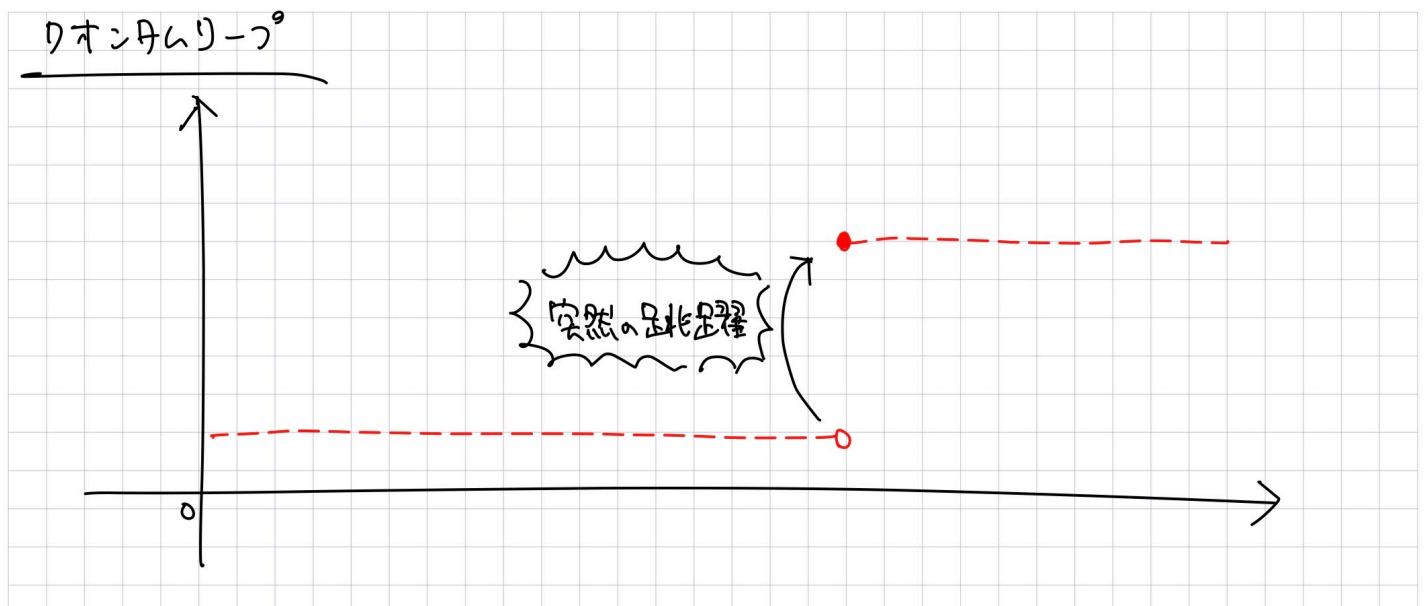
図にするとこんな感じ。



努力を重ねれば重ねるほど、自分の実力が上がっていく、と。
多くの人はこう思っています。

けど、そうじゃないんです。

実際は、こう。

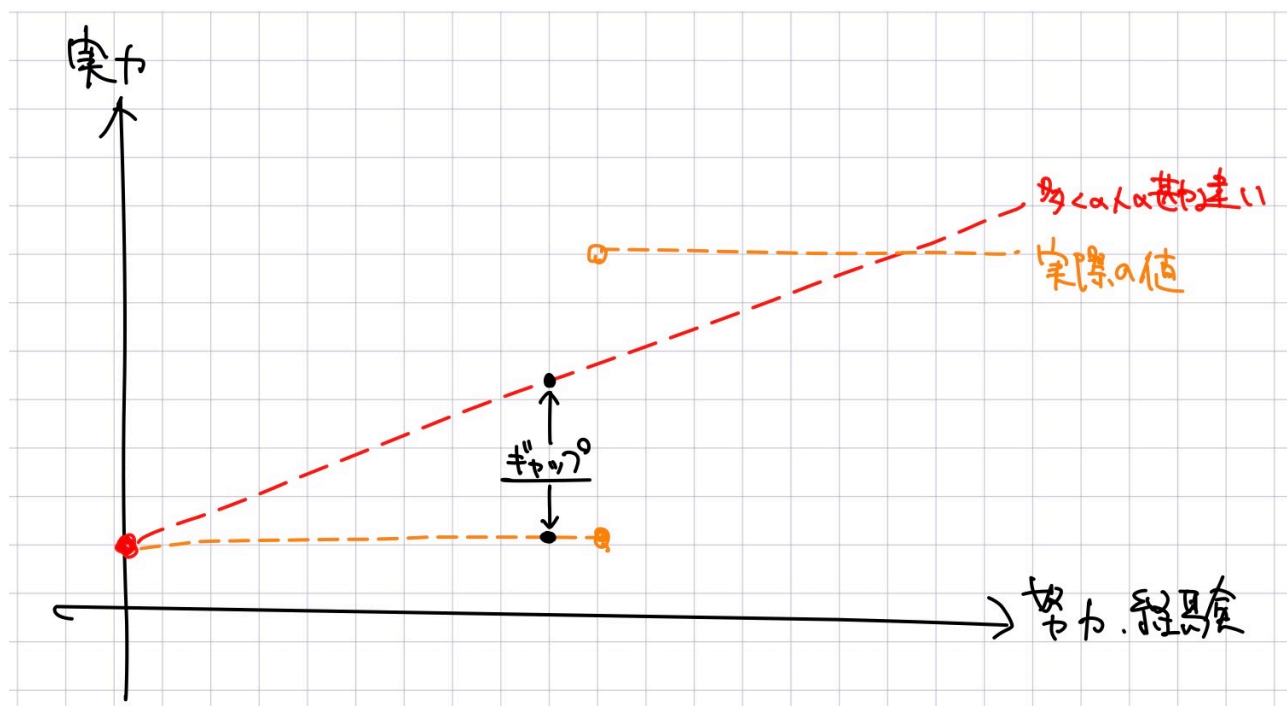


ある一定期間は、努力を重ねても、全く実力は上がりません。それも、なかなか長い期間上がらないのです。けど、ある時、突然実力が爆発的に上がります。

この、突如スキルが上がる瞬間のことを「クオンタムリープ」と呼んだりします。（量子力学の用語です）

ある瞬間、いきなり雲が晴れたように、出来るようになるのです。

で、この事実を知っていると知らないとでは、大変な違いが生まれます。多くの人が挫折する「あるポイント」を超えられるのです。



それが、この「ギャップ」の部分。

「こんなに努力しているはずなのに、全く実力が伸びていない…」

という、理想と現実のギャップに苦しむ時期です。努力しているのに、明確なリターンが得られていないこの状況。これが人間にとっては、とても「不快」です。

やっぱり、がんばった分は、帰ってきてほしいじゃないですか。

そんな「努力に対する見返りへの執着」によって、あとすこしでクオインタムリープに到達しそうなのに、諦める人が後を絶ちません。

もったいなさすぎです。

イメージは、ポケモンやドラクエの「経験値」システムに近いですね。

敵を倒しても倒しても、貯まるのは経験値だけ。経験値ゲージが貯まるだけで、実際にキャラクターが強くなるわけではありません。

しかし、ある一定値を超えた瞬間にレベルがあがって、能力値は高まります。これがクオインタムリープの瞬間です。

ゲームでは、レベルアップの瞬間はかなり細切れに設定されていますが、人間はかなりザックリです。だから、レベル1からレベル2までの距離がとても長い。

実際に僕の例でいうと、女修行を始めてから、初セックスまで約2年。起業にチャレンジしたときも、自分ひとりが生きていけるほどを稼ぐまでに2年半かかりました。

まあ、もちろんかなり遠回りしているのですが、こうやって講座で学んで頂ければ半年から1年くらいで見える世界は変わるはずですが、

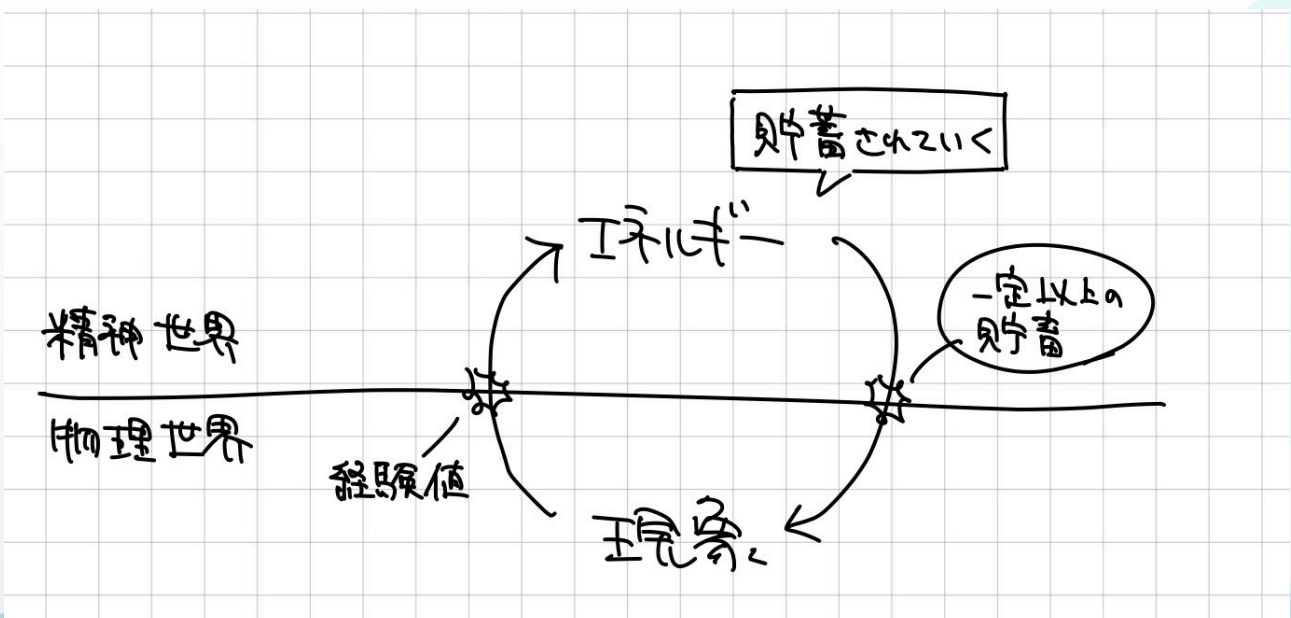
それでも「半年は見てほしい」のです。

最低でも半年は、諦めずに続けてほしいのです。「今は経験値をためていて、まだレベルアップまでは至ってないだけだ」と考えれば、気持ちはラクになるはず。

…というわけで、原理は理解できたと思うので、

“超大事な図”をお見せします。

これは「帝王学の真髄の1つ」と言ってもいい、この世の原理原則であり、この世界を支配している法則の1つです。



まずは、物理世界での「現象」があります。

例えば、女性とデートに行った。それによって、経験値がたまります。ここでは便宜上、経験値のことを「エネルギー」と表現しておきますね。

このエネルギーは、自分のエネルギーゲージに溜まっていきます。

そして、エネルギーがある一定ラインを超えた時、貯めてきた分のエネルギーは全て「現象」に変換されます。定期預金の満了みたいな感じですね。

このエネルギーが「トークスキル」や「ボディランゲージスキル」やなどに変換され、あなた自身の実力がアップするのです。

「現象」 → 「エネルギー」 → 「一定以上たまる」 → 「現象化」

そして、レベルアップした自分で、また次の経験値を取りに行きます。

このサイクルを、人間は延々と繰り返しているのです。(この図を「循環図」というので、名前も覚えておいて下さい。今後もよく登場します。)

今回は、自分のスキルを飛躍させるという視点で循環図を解説しましたが、女性が男を好きになる原理や、カップルの関係性の続け方や、お金の稼ぎ方など、あらゆるものが循環図で説明できます。

ぜひ、今後の解説を楽しみにしていきましょう。

循環図を使いこなす生き方

僕は常々「モテるとは、日頃の生き方である」と言っています。で、どういう生き方をすればいいの？という話ですが、

これも、循環図を理解している人の生き方、というのがあります。

全部で4つあるので、ぜひ、取り入れていって下さい。

1：ドMになれ

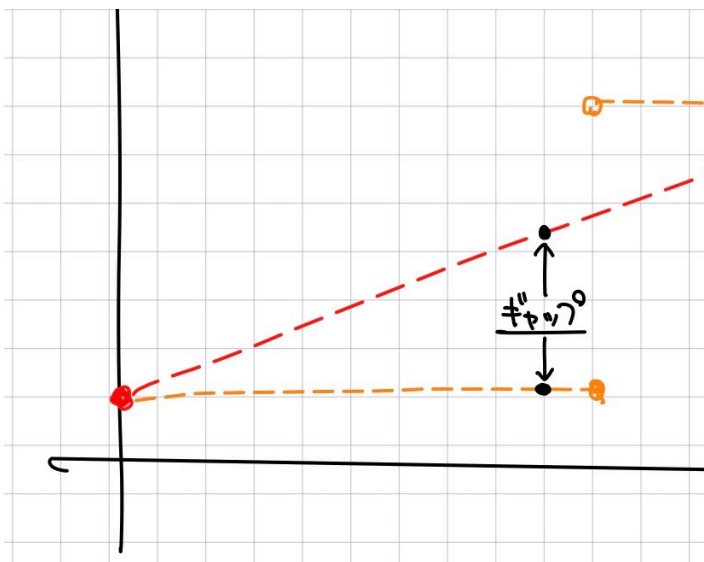
先程もお伝えしましたが、努力を必死に重ねても、エネルギーゲージが溜まって現象化するにはタイムラグがあります。

その期間は、ぶっちゃけしんどいです。

努力しているのに、結果は付いてこないんですからね。

この苦しみを感じたということは「だんだんエネルギーゲージが溜まってきた」と捉えることも出来ます。

そして、クオントムリープ(現象化)の直前では、その痛みはMAXになります。



このギャップが大きければ大きいほど、感じる痛みも大きくなりますからね。

この痛みをいかに超えられるか？が、その人の人生を大きく左右します。

ポイントは、「耐える・我慢する」というよりは「DMになって楽しむ」ということです。このギャップに苦しんで、結果が出ないまま、それでも必死に努力し続ける。その経験は、あとから振り返った時に「いい思い出」に変わります。

そして「今の自分があるのは、あの頃の時期のおかげだ」と、心から思えるのです。

だから、諦めそうになっても、

- ・ エネルギーゲージが溜まってきた
- ・ 後から振り返ったらいい思い出になる

と思って、その苦しみを楽しんで欲しいのです。

そして、だんだんと、ギャップの辛さがやみつきになってきます。

「また人生の中で面白い話が増える…！」

「キタキタ！またもう少しでレベルアップするぞ…！」

そうやって、ギャップの苦しみを快感に変えることが出来たら、もうこの世界はイージーゲームです。次々とレベルを上げ、スキルを身に着け、いつのまにかとんでもない人間に成長していることでしょう。

2：ハイレベルな情報に触れ続ける

これも「人間の法則」なので、ぜひ覚えておいてほしいのですが・・・

人間は、自分の同じレベルの情報に触れるのが「快」です。
そして、自分より高いレベルの情報は「不快」です。

だから、ほとんどの人は、自分と同じ(orそれ以下)の情報に、常時触れ続けています。Twitterのタイムライン、YouTube、Netflix、友人との会話、スマホゲーム、AV…などなど。

ただ、自分と同じレベルの情報に触れていても、あなたのレベルが上がることはありません。

「理解できるかできないか、微妙なライン」

の情報を取り続けることで、自分の次のレベルアップに貢献してくれます。さきほどクオンタムリープの図を見せましたが、この飛躍が「どこまで飛んでいくか？」は、その人が普段触れている情報によります。

レベルの低い情報に触れている人は、リープが起こっても、大した飛躍は起こりません。

しかし、普段から自分よりも遥かにレベルの高い情報を取り入れていれば、一気にそのハイレベルへと飛ぶことも出来ます。

だから、常にそういった「自分が理想とする情報」を取り入れてほしいんです。僕のYouTubeをダウンロードしてずっと聞いててもいいし、(YouTubeプレミアムを使えば、スマホをロックしたまま音声だけ聞き流せます)別の音声教材を使って、音声学習をするのもいいでしょう。

聞く音声は気をつけてほしくて

- 自分が出来てなくて、出来るようになりたいこと
- 自分の中にインストールしたい価値観
- 理解できそうでできないこと

みたいな音声を聞くといいですね。ぶっちゃけそういう音声を聞くのは脳科学的には「不快」です。が、それを続けることによって、大きな飛躍を起こすことが出来るようになります。

特にYouTubeは、耳障りの良い、レベルの低い話が沢山転がっているので、要注意ですね。

3：本番主義

同じ用に、女の子とデートに言ったとしても、沢山の経験値(エネルギー)を獲得できる人もいれば、全く経験値(エネルギー)がたまらない人もいます。

他にも、僕は仕事の付き合いで、キャバクラやクラブに行っておねえちゃんと会話をすることもあります。そういう会話の場でも、僕はしっかり経験値をゲットします。

けど、一緒に行ってるオジサンは、よく行ってるくせに、全くモテないしコミュニケーションも下手くそ。全然成長していません。

その違いは一体何なのか？というと、

「本番主義で生きているかどうか？」

なのです。

本番主義とは「常に、人生最大のチャンスが目の前に来ているというテイで生きる」ということ。

目の前の人、もし自分のドストライクな見た目、オッパイも大きくて、性格も優しくて、素直でいい子で、話も合うような、そんな「一流のいい女」だったとしたら、どう接するか？

ということを常に考えながら、どんな女性とも接するのです。

そして、例えば仕事でも、「超絶美人が後ろから見ていたら？」とか考えて仕事をします。一人で電車に乗るときも、隣にこの上なく最高の彼女があるなら、どんなボディランゲージか？と考えると立ち振る舞います。

これが本番主義。

いついかなる時でも、24時間365日、モテる魅力的な男で生きる。

これを実践することで、自分の日々の生活、行動、移動、何気ない会話の全てが経験値(エネルギー)に変わります。

電車の乗り降りでも、椅子に座る瞬間でも、ご飯を食べるときでも、全て自分の魅力を高めるエネルギーに変換されるのです。

何も考えずに、ボーッと食べるのか？
魅力的な男の食べ方を意識しながら食べるのか？

これを、1日3食、1年365日続けるだけで、年間1000回以上の実戦経験を積めます。そりゃあ、所作もカッコよくなりますよ。

ぜひ、毎日本番主義で、生きていましょう。

4 : Fake it

これは、本番主義を更に協力にする手法です。

Fake it(ふえいくいっと)と呼びます。

「Fake it until you become」の略。

「現実になるまで、演じ続ける」です。

あなたが理想とする人や、手に入れたいスキルを持っている人が、いると思います。

その人を、自分に憑依させて、その人になりきって日々を生きる。これが「Fake it」です。

最初は演技でOK。こういうテンション、こういう立ち振舞、こういう会話…という理想の人の動きを想像し、自分で再現します。要するに「モノマネ」です。

この演技をやり続けていると、それはいつのまにか、自分の中に取り込まれてきます。

「あの俳優のようなリアクション」を演じ続けていると、いつのまにか、その俳優のリアクションスキルは自分のものになるのです。

こうやって、人が持っている良いスキルを盗みまくりましょう。

別の人格を憑依させて、演じる。それが、本当の自分に取り込まれる。そうやって、次々とスキルを獲得して行って頂ければと思います。

というわけで、口説きのロジックの最終回は、口説きのロジックをイン
ストールする方法をお伝えしました。

かなり重要な帝王学の真髓のような話もしたので、ぜひ、何度も読み返
して実践して行って下さい！

では、今回は以上です。

ありがとうございました！

恋愛屋ジュン